

○ 6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

おはようございます。これより宮本栄八の一般質問をさせていただきます。今回もまた、海が砂漠のように多くの質問を出してしまい、少し反省をしておりますが、よろしくお願いします。

私の意図は事前に質問を提出し、聞き取りの職員さんとも十分に話し、答弁書も既に作成され、市長のレクチャーも受けて、一定の決断を、最高責任者として出た答えがここ10分程度の議論をするからといって大きく変わるはずがないと、そういうふうな思いから、それなら広くより多くの課題を、市長の方針や決意を聞く方が得策と考えるからです。もちろん、私の選挙公約である提案型議員として、ほぼすべての質問には提案もしております。

また、私が以前、議員でなく一市民としてテレビのチャンネルをかえるときに、途中に市議会放映があっていて、ほかの番組も見なければならず、議員さんの質問や答えの前振りが長く、早く回答を聞きたかったという経験から、一般市民にもわかりやすく、Q & A方式にならないかとの考えから試みておりますので、趣旨を御理解の上、よろしくお願いします。

また、県議さんの議会だよりの中で、一般質問の批判を集めたような、その中で、はいはいと、聞き過ぎというのは私のことかなと思って、ちょっと反省もしております。

ただ、先日の牟田議員と市長のやりとりの中で、市長が議論をしているうちに考えが変わったという発言もありましたので、市長が柔軟に考えを変えてもらえるようであれば、私も少し質問形式を今後再考しなければならないとも思っております。

以上、前振りが長くなりましたけど、まず第1番の質問として、市政運営の方針についてです。

これは、行政の優先順位をどう考えるかということですが、私は現在、武雄市長及び市が大きく人と時間と金をかけている「がばいばあちゃん」について、余り熱心とは言えません。もちろん、武雄市のPR活動に対して反対ではありません。賛助会費やTシャツも買って最低限の支援はしていますが、考えがあって着てはいません。その最大の理由は、市民が行政に本当にしてほしい優先度の高い政策は、観光のPRではないと私は思うからです。

そう思うのはなぜかというのは、合併のときに市民を交えているんな話があったと思うわけですね。その中で、1市2町になってからはちょっと時間がなく、1市3町の前例を引いて修正した形でできていると思うんですけれども、その1市3町のときに詳細に、6,000人やったのですかね、今までになくたくさんのアンケートをとってありました。その中で出た生活満足度の答えが（資料を示す）パネルではないんですけれども、この黄色い線がゼロです。（「何も見えん」と呼ぶ者あり）見えんですね。

では、これを私が見て言いますと、やっぱり市長が公約で当選された雇用、企業誘致がもうほとんどで一番大きいです。その次が、下水道、上水道、公共交通機関と、ここにばっと

出ているやつになっていますよね。観光というのはそうでもないです。半分ぐらいですよね。というところから考えて、そういう優先課題にもっと取り組んでももらえないかなという思いがあるからなんです。

また、観光について1市3町のときに住民とみんなで話し合った中のことは、そのときの九州西部のブランド都市ということで一つ構想してあるんですよ。そこには何て書いてあるかと言えば、地域の活性化に――もう途中抜きますけれども、結局はPRが先じゃなくて内発型の発展に取り組むと。そして、内部の充実、景観、農業、観光、連携を強力にした上で、その存在を広くアピールできるというふうな順番もですね、まず自分でいいものをぴしっとした後にPRしようということだったと思うんですよね。だから、それもちっと逆ではないかなというふうな気持ちもあって、できればここで一回確認をしたいなと。

がばいばあちゃん、ある意味、政治に関心がなかった人が政治に関心を持って結構支援しているということもわかるわけですよ。私がここで考える観光というのは、九州ブランドぐらいの観光だったわけですよ。だから、今市長が言うような、富良野のような全国観光を目指すというところまでみんな考えて発想したかと言えば、そうでもないわけですよ。

私が今回提案しているのは、その辺を全国ブランドに持っていくんだと、それに力を注ぐんだと、そういうのが、今の下水道とかと比べてどの程度にあるのか私はわからないわけですよ。それが全国ブランドにある程度、我慢してもやっていこうということであれば、私はもう率先してTシャツ着て頑張ろうかなというふうに思っているわけなんですよ。だから、私はしたくないんじゃないくて、優先順位が高くないんじゃないかなという心がそういうふうにさせているんですよ。

だから、これを一回アンケートでもとって、本当にはっきりした形でしていただきたいということが今回の第1回目の問題なんですよ。前は、市長は市長でやってください、私は私でやりますからということも、本当は市民からすれば、力を合わせられるところは合わせてやらんばいかんというのが本筋じゃないかなと、そのためには共通認識を市長も議員も市民も持たんといかんとかじゃないかなと。そこで、大まかなアンケートじゃなくて、より具体的なアンケートというものをとって、市政の優先順位の共有化を図ったがよいかなと思って、そのアンケート調査の実施についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、悲しいなと思って今の質問を聞いておりました。というのも、私は別にがばいを観光だけにするつもりはなかなかったですね。きのうの答弁でも言いましたけれども、それを一つのきっかけとして、上田議員の質問をかりれば、1番バッテリーとしての役割を果たすべく、

ほんなごて、もう寝る間も惜しんでやってきたつもりであります。これを一つの起爆剤として、武雄の人たちが、まず武雄がどういうところかというのをきちんとわかってもらった上で、こがんよかとか、その反面ここは足りんねというところを、きちんと把握するのと同時に、やっぱり外の人が武雄の存在ば知らんぎんだですね、それは私はまちづくりにはつながっていかんというふうに思うわけです。

その上で、私は、きのうの牟田議員の質問にもありました国道の話、あるいは下水道の話、本当に全面展開をしています。うちの職員も一生懸命頑張ってもらっています。ただ、私も一人の人間です。全部が、優先順位もさることながら、やっぱり目の届かん部分というのは私もあると思います。そういう意味で、決して市民ニーズの順番から外れたことを私はしているつもりはありません。その上でアンケート、私は実はあんまりアンケートって信頼しとらんとですね。なぜならば、項目一つとっても、文言が変わるだけで10%から20%変わるというのを私はいろんなところで経験をしております。したがって、それよりも私みずからが市長と語る会を開くなど、あるいは議員の皆さんたちが広範に有権者の意見を聞くなど、そういう生のアナログの声というのを私は大事にしたいというふうに思っております。そういう意味で、一つの一環として、子供たちと市長と語る会も開催をいたしますし、こういったところに市民の皆さんたちの悩みがあって、あるいは反面喜びがあって、それをどう市政に持っていくか、これが私に課せられた課題だというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

結論的には、アンケート調査は取り方によって違うから、アンケート調査よりも直接の話し合いがいいということになるわけですかね。

きのう、私はこの質問を出して、ずっと今まで思ってきたことが少し解消したのはあったんですよ。きのうの答弁の中で、35号線のトンネルの用地交渉というですかね、トンネルになるんですけど、用地交渉のそれが、がばいよりも何百倍も重要だと言われたところで、ばっと今までのもやもやが払拭したところもあったはあったんですね。でも、質問は出さんといかんから質問しているということでございます。

そこで、次は市長と語る会の方に移っていくんですけども、市長と語る会でハイブリット車のハリアーですね、リッター17キロ走るのを、そこの話し合いでリッター五、六キロのガソリン車にかえたということで、大きな転換をさせた市民と語る会と思うんですけども、その中で、特に自分がこういうふうにせんといかんとか、方針に大きく考えを示唆される部分があったと思うわけですけども、その辺について特に気づいた点についてお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

市長と語る会で気づいたこと、その前に、公用車の件は市長と語る会でも意見は出しましたが、総合的に判断を下した結果であって、市長と語る会が唯一無二の決断のきっかけになったというわけではありません。これはちょっと申し上げたいというふうに思います。

その上で、市長と語る会の位置づけは、あれはほんなごてよかとですね。ただ、私が今危惧しているのが、何かこう、内閣府のタウンミーティングじゃなかばってんが、どうもこいば続けていくぎんた、出来レースのごとなってしまうとですね、私はそいば一番心配しております。幸い、武雄はまだそういうあいはなかですね。だから、市民の皆さんたちにはぜひ御参加を願いたいというふうに思っております。その上で、本当の生の声を私も聞きたいと思っておりますし、その声をすぐ、担当で言えば地域振興課、地域振興課から各課担当に速やかに浸透するようにしています。その上で、できることはすぐ実践をしております。例えば、バスの時刻表の話が山内町の市長と語る会で出ました。そのときも、やっぱり私気づかんやったですね、バスにも乗ったことがありますけれども。それで、すぐお願いをして変更してもらったところでもありますし、時間のかかるものについては地域審議会とか、いろんなところにまた御協力をいただきながら、改善すべきところは改善するようにはしているつもりであります。

したがって、私はそういうメリットが十分これはあるなというふうには思っています。デメリットといえば、今後これが形ばかりにならんごと、血の通ったきちんと意見が通るようなのに続けていきたいなというふうに思っております。

○ 議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○ 6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

わかりました。改良を重ねてやっていっていただきたいと思います。

次に、市の最近の関心のあることを決定しているのが、意外と審議会というか、条例上の審議会じゃなくて、市長の諮問に基づく大綱を考える会とか、行革懇話会とか、また今度、がばい景観を考える会とかあると思うんですけども、議員はできるだけそういう会議に入らないで、また、議員は議員として別のところで話し合おうということを、ずっと、二、三年前から武雄市でやっているんですけども、ただ最近、市議会議員が知る前に新聞に出て、もう確定した話みたいになっているわけなんですよね。そしてまた、普通の35号線の報告も全然なかったし、何かこう、最近、情報は自分で取らんと入ってこないなというふうな格好になっていると思うんですよ。

自民党だって、税制調査会とか中間報告、答申をして、一応それなりの議員の意向、いろんな意見を踏まえて最終答申でなると思うんですよ。だから、今の形でもうばって決めら

れて、大楠も3本と、ああ3本なら若木の大楠を植えた嬉野のやつを1本ぐらい持ってきてもいいかなとか考えているけど、もう今度1本になっているということで、ちょっともう考えとったとが何かむだだったなというふうな感じになったりもしてですね。

そこで、その審議会に頼むというのは私はいいいことだと思うんですけども、その辺のメンバーの決定とか中間報告的なものができないかということについてお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の、樋渡市政での基本的な方針は、市政にかかわる重要な案件は議会が決めるものだというふうに考えております。その上で、例えば大楠の話、景観の話、これについては、まず市民の皆さんたちに広範な議論をいただく、これが私は市政にとって大事なことでないかというふうに考えております。その上で、中間報告等々の話が出ましたけれども、これは物と事によりますね。それともう一つが、あたかも決まったようにというふうにありますけれども、決めるときは必ず私は議会にきちんと言っています。35号線の話も、最初に私が申し上げたのもこの議会であります。そういう意味で、私は議会というのをある意味、僭越かもしれませんが、車の両輪だというふうに考えておりますので、その気持ちが揺らぐところはありません。その上でどういう議論があるか、ここは議員の皆さんたちも御議論いただきたいと思っておりますけれども、いろんな市民の懇話会等々には私は入ってきてほしいというふうに思っております。これは別に一議員、執行委員としてではなくて、有識者、やっぱり議員さんは情報ば持っとんさあです。また、私に比べても比較にならんぐらいのネットワークも持っとんさあです。そういう意味で、これは異論、反論はあるかもしれませんが、ぜひ議員各位におかれても、そういったところに私はどんどん入ってきてほしいというふうに思っています。例えば、そこで賛成して議会で反対するというのも私はあっていいと思います。

そういう意味で、そういう懇話会、あるいは審議会について、我々としてはいっぱい情報ば欲しかわけですね。いっぱい視察も行きよんさあです。そういったことで、例えば、この市はこういうことばしようですと、これは我々じゃとてもかなわんです。そういう意味での参加を私は願いたいというふうに思っておりますし、最後の答弁になりますけれども、一番重要なことは、やっぱり我々執行部と議会とよく相談して決めるというふうになろうかと思っております。

ただ、首長にも執行権というのがあります。それと予算というのがあります。それと条例というのがあります。その中で最大限できることは何かということは、お互いやっぱり考えなければいけないなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、議員は入ってそこで情報をということですね。ただ、あんまり議員がおると市民が自由に話せないかなという善意的な遠慮もあったかなと思います。ただ、議員はいいとして、一般の市民の人が決定する前に、こうだものの、ああだものと言いたいところもあるわけですね。だから、その中間報告についてはどう思われるか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

中間報告も物と事によるというふうに先ほど答弁をしたとおりです。例えば、空き庁舎の活用方策、これについては中間報告をもう出したところでもあります。したがって、こういった市政を揺るがす、あるいは市政の重要項目については、私は中間報告をして、パブリックコメントに付して、そして議会の皆さんたちにも全協とかで議論を賜るというのは、これは大事だというふうに思っております。何でもかんでも中間報告というのは、ちょっと私は考えにっかですね。中間報告をつくるために議論の時間がなくなるというのも間々あるわけです。だから、そういう意味で、それを補完するために、例えばケーブルテレビで放映をすとか、あるいは議事録をもう少し今より拡充した形で出すとか、私はそっちの方が現実的かつ具体的だというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私は、何でもかんでも出すというふうなことではありませぬので、重要な項目で決まった後しか我々には伝わらんものということにならないように、できるだけしたいということを考えておるわけです。よろしくお願いします。

次に、環境問題についてです。

1 番、旧ごみ袋の再販売についてです。これはこの間、市長の判断によって旧町のごみ袋というのを販売されて、ほぼ店頭から売れていると思うんですけども、私が今回問題で出しているのは、以前に名前を書けない袋が4万枚程度残っていると思うわけですよ。それについても、婦人会の人に名前を書いてくださいと徹底して、幾らか販売した過去の経緯があります。そこで、その以前の名前を記入できない袋について、再販売できないものかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

再販売についてお答えしたいと思います。

今「旧々ごみ袋」という言い方ばするしかですね、古いごみ袋のそのまた古かという意味で。で、これが実は5万枚しかもう残っとらんとですね。ちなみに、旧ごみ袋は40万枚近くあったわけです。だから、40万枚ぐらいあれば、ビジネスベースというか、売るというのには意味があると。それと、やっぱりですね、旧々ごみ袋はちょっとおろいかとです。名前のところのあたりとかですね。そういう意味ではもう商品価値がかなり減じていますので、今までどおり、ボランティア活動の皆さんにそれを優先的に渡すといった方が、ぬくもりのある元気な武雄市としては、私は望ましいんじゃないかというふうに思っておりますし、今のペースでいけば3年近くで、もうすべてこちらの手持ちがなくなるというふうになりますので、それはそういうボランティア活動を推進するという意味、あるいは婦人会、老人会、区長会もあるかもしれません。そういった支援という意味で、私は旧々ごみ袋は活用していきたいなということを柔軟に考えております。

○ 議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○ 6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしくお願いします。一応私のあれでは、部長がそのごみ袋をここに見せてくれるかなというふうに思っていたんですけども、市長、ありがとうございます。

次に、2番目の廃プラ収集・その他紙類の収集ということです。

廃プラの収集については、前回、容リ法のプラスチックと、普通のおもちゃとかプラスチックのいすとかですね、そういうのを分けた方が処理費が安いということを提案したと思いますが、市長はそれは検討するということで、そこまで私も立ち入って言いませんけれども、今度19年からするとしたら、やっぱり皆さん事前に集めんといかんと思うわけですよ。例えば、私が次の質問の紙箱類ですね、前回質問してから2カ月で、こういろいろ集めているんですけども、やっぱりそのとき出すといっても出せないんですよ。ずうっと丁寧に集めていかんと出せないわけだから。だから、19年の4月からするか、5月からするかはわかりませんが、やっぱり保存できるやつはみんな集めると思うんですよ、べたべたしたのじゃなくてですね。だから、そういうのはそうむちゃくちゃないと思うんですよ。ある程度その時期を言ってもらえばこちら準備ができて、第1回目の収集日もばあっとこう、たくさん集まるということになると思うんですけども、その辺の大体のめどを教えてくださいたいと思います。

○ 議長（杉原豊喜君）

藤崎市民環境部長

○藤崎市民環境部長〔登壇〕

お答えいたします。

廃プラの分別収集の処理計画につきましては、19年度内の導入を前提に準備中であります。現時点では導入時期についてはまだ決定しておりませんが、決定し次第、導入スケジュールに沿って、できるだけ早く皆様への周知を図ってまいりたいと思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に補足をします。

19年度は、4月から開始にしても3月31日までであるわけですね。今、私としては、さっきも副市長と相談しよったばってん、19年度当初はやっぱり難しかですね。だから、19年度も導入したとしてもかなり遅い時期になると思います。

それは2点あります。一つが、これをやることによってどうも15,000千円の増になるみたいですね。収集に、今は全部こう突っ込みようわけです。それを、廃プラを分別することによってプラスアルファが15,000千円かかるといったこととか、さっき宮本議員からもありましたように、その周知の時間にやっぱりちょっと時間がかかるだろうと。それともう一つが、どういうシステムでやるのが一番効率的か、これはやっぱり合併直後でもありますので、時間がもう少しかかるかなというふうに考えております。これの拙速は私は避けたいというふうに考えておりますので、十分また議会とよく相談して詰めていきたいなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

容り法だけ集めれば、多分4千円、5千円ぐらいだからですね。ただ、その収集をどういうふうに考えるか、今までも持っていつているから、同じ収集の中で収集業者にさせれば安くなるわけですね、もうけるわけですよ。ただ、別途手数料というのですか、そういうのをつけて集めればあれだから、それはまあ考え方、やり方だと思います。別に急げというんじゃないで、するなら早目に言っとかんと集まらんですよということですね。そういうことを言いたいと思います。

そして、そのプラスチックが遅くなるなら、多分そのプラスチックよりもこの紙箱が多分重みがあるんじゃないかなと思うわけですよ。だから、クリーンセンターへの持ち込みとしては、こっちの方が重くはないかなというふうに考えているんですけども、この紙箱も資源回収のときに私が受付担当であるんですよ。でも、例えば武雄区で500世帯あるんです

けれども、この紙箱を持ってくる人は8人ぐらいですかね。結局、そういうふうな状況ですよ。プラスチックはお金かけて集めるというのはあれですけども、今これの場合には、持ってくれば逆にお金をもらえますよね、有償なんですよ。だから、もっとこっちも宣伝して、持ってきてもらうようにちょっとPRを、まずこっちをした方がよくないだろうかというふうに思いますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎市民環境部長

○藤崎市民環境部長〔登壇〕

確かに議員おっしゃるとおり、紙箱、紙類というのは、なかなか資源物の収集日には少なく排出されているかと思います。このことにつきましては、もう資源物として私たちも皆さんの家庭に配布しております「武雄市の家庭のごみ、資源物の分け方、出し方」の中で、資源ごみの中にちゃんと「その他の包装類、紙箱」ということで記載はしておりますけれども、市民の皆様にはまだなかなか徹底していないところがございます、こちら辺につきましては、先ほど申されました紙箱、紙類についても、今後十分広報してまいりたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしくお願いします。多分知らない人も多いと思うんですよ。知っている人はもうずっと出しているんですよね。それで、私が以前、これを1年間、四つぐらいためとったですよ。その集積場に持っていったら、冬だったからたき火にされたんですよね。そのくらい皆さん知らないんですよ。受け取る方もよく知らないというか。それでもう、ちょっと怒ってですね、物産まつりの警備をしている環境課の人をその場に連れてきて、いろいろ話をしたら、「いや、地元の方で決定されていますから」とかなんか、感じで言われてですね、こういったこともありましたので、集める方も出す方もよく理解していないというところもありますので、よろしくお願いします。

そして、できればケーブルテレビに出て、こうして箱を破って入れるとか、これはこうする、ブルタブ取るとか、そういうのを、冊子を見てここに書いてありますじゃなくて、もうちょっとその辺の広報もお願いしたいと思います。

続いて、環境の3番目、下水道マップの見直しについてです。

先日も質問に出ておりましたように、武雄市の場合には下水道が他市に比べて大きくおくれております。それはまあ、高架・区画整理とか、そういう8万都市でしかできないのを3万都市でしたということで、それはもう議会も賛成して選択したことだからやむを得ないと。学校整備もおくれると言いよったけれども、国が最後の方に残ったお金を教育費に回

してずっとつけてくれたから、学校はずっとできてきたというラッキーな面もあったと思います。

ただ、その下水道については自分でせんといかんと、特例債を利用すればいいかなというふうに思っているんですけども、その中で、結局、今の計画で言えば旧武雄市を全部するのに100年かかるわけですよ、今の計画をずうっと当てはめていけば。それは大変なことだと。そしたら、1工区が30年ぐらいで終わるならば、市町村設置型の合併浄化槽を入れれば、その下水道のできる30年で浄化槽も設置して、30年で全部できるんじゃないかなということを提案をしたわけなんですけれども、それも、阿南市に行政視察に行って、そこが下水道をしているのに、議会からは市町村設置型をせろせろというふうな話が出ているというのを、議会全員で出す議会だよりというですかね、その中で見つけたわけですよ。そこから法律が変わったということではいっているんですけど、もう16、17、18と3年も、前の市長さんは速やかに取り組むということだったんですけども、計画がずれずれになってですね。何でできんかという、計画がずれずれなんですよ。それは市民との対話の中じゃなくて、原課が計画をつくる中でずれずれになっておりますよね。だから今回も、今年度実施で言いよったけど今年度につくると、今年度つくるが今年度は末から話し合わんばいかんとか、全然この計画がはっきりせんわけなんですよ。

それで、その計画についても、砺波市という同じような計画を変更したところに行ったんですよ。そこでも計画変更についてのお話を聞きました。そしたら、その下水道マップの変更スケジュールというのを、もうぴしゃっと最初につくってあるんですよ。そして、その検討の中には、市役所の中の検討会議、そして住民を集めた下水道検討委員会、そして議員を集めた下水道対策特別委員会、そして市議会、そして富山県と、そこでの説明を一覧表に書いてあるわけなんですよ。そして、議会なんか、まず基本計画見直し作業の手順についての説明をする、もう一番最初にこういうふうにコンサルに出して、こうこうこうこう、こうやっていっていきますよというのを議会に最初に説明してスタートしているんですよ。今の武雄のあり方は、まずコンサルに出して、出てきてみてからというふうな、そういうふうな格好になっているんじゃないかなと。

それで、庁内でも2回、住民では3回、議会の特別委員会でも2回、市議会でも3回の中間報告と手続をしてあるんですよ。だから、武雄市もそういうふうにぴしゃっとタイムスケジュールをつくって、皆さんが合意をできるような形にしてみたいと思うわけですよ。今までも下水道マップの見直しは何回かありましたが、それは結局もうできんとわかった上で、ただ、この地域に当てはめるのはどれを当てはめるということで、直接住民とは、その年数も関係なく、実施時期も関係なく作り直したマップだったんですよ。でも、今後は、きのうも話出しましたが、山内町は全部していると。それに、あと残りをどういうふうにするかというのは、絵にかいた計画じゃなくて本当の計画になると思うんですよ。だか

ら、今までの計画とは全く違う計画になるんじゃないかなと。そこで、やはりタイムスケジュールをはっきりすることが、逆に言えば、しっかりした汚水処理計画ができるんじゃないかなと思って、まず、そういう計画のスケジュールを、これも前からやっていたんですよね。だから、こういうのと一緒になくても、スケジュールを皆さんに提示していただきたいと思いますけれども、その辺についてのお考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

砺波市のやり方を今おっしゃっていただきました。私は、今の武雄市は砺波市に至るまだ3歩ぐらい手前だと思うんですね。というのも、合併という不確定要素がまず今確定したばかりであると。それと財政状況です。やっぱり3年前の見通しの財政状況と今の置かれている状況というのは、もう激変しちゃうわけですね。そういったところでタイムスケジュールだけつくっても、先ほどおっしゃったような絵にかいたような計画に私はなっていると思います。その前に、まず責任行政を進める観点からどういうふうにしていくか、きのうも建設部長から答弁しましたとおり、やっぱり使用料の問題とエリアの問題、あと各工法の問題というのは、もう少し事務的にしっかり検討すべきだというふうに思っています。この検討の中には私も当然入っております。その上で、こういうふうにしていこうという行政の中での腹づもりができた段階で、タイムスケジュールですかね、ロードマップというんですかね、下水道マップというんですかね、そういうふうに展開をしていくべきだろうというふうに思っております。やっぱり行政の中でしっかり固めて、これはやるべき問題だと。下水道百年の計を考えた場合には、私はそういうふうにした土台、礎が必要ではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

下水道マップと達成するロードマップとはまた違って、エリア地区をどう分けるかという計画の見直しをしているから、その見直し作業についてのスケジュールをはっきりしてくれということです、何もお金が絡むわけではないので、よろしくお願いします。

そこで、お金はお金でまた別の話ですればいいわけで、きのう、市町村設置型の合併浄化槽をして、その維持費もそっちが払うような話をしておりますけれども、全然そんな話じゃなかったと思うんですよね。ただ、設置するときにしてもらおうということであったと思うわけですが、その辺を明確にするためにも、見直しのスケジュールということであって、実施のスケジュールじゃありませんので、できるだけつくって明確にさせていただくようお願いしたいと思います。

次に、企業・特別会計事業についてです。

これは、きのうもたくさん質問が出ておりましたが、結局、夕張市が破綻に陥ったのも、本会計だけしていれば、税収は少なくとも、その市が生きていくだけの交付税措置はあるわけだから、絶対つぶれることはないシステムになっているわけですね。なぜそれがそういうふうになっているかというのは、余分にした分、普通の自治体を運営する以外にした分の食い込みを入れ込んで本体が崩れたということになっているわけだから、本体自体していれば何も問題はないわけですよ。それを当てはめると、武雄市も本体以外のことを少し対応して、本体を崩さんようにしとかんばいかん。そういう思いはもう数年前からあって、私が特別委員会の方ばかり好んで、そちらの方に参加しているのは、そういう理由からなんですけれども。

本体の方は大丈夫だから、本体じゃない方をまずやらんといかんということで、第1番目に競輪事業の今後についてです。

私は、競輪事業も急にもうけろとか、そういうふうには思っていないんですけれども、ある程度考え方をしっかり持っていかなと、また本会計から一時借り入れして、一時借り入れが続いていって、返せない負債になって、あきらめみたいになるといかなからですね。だから、ある程度の時期に考えをしっかりとかんばいかんというふうに思うんですよ。それは私が考えたわけじゃなくて、武雄市が平成15年に出了た競輪経営改善計画の中の、いっぱいあるんですけど、要点は1ページのこの半ページにある内容になるんですよ。それは、場外をつくっても本場が減っていった本場の赤字が膨らんでいけば、結局は成り立っていかないということなんですよ。これはちょっとどうかかわらんですけど、場外をたくさんつくって、その分をカバーすればいいだけという考え方もあるんです。

そして、もう1点、ここに最後に書いてあるのは、いろいろあっても見直しが必要と。これをやめるか続けるかの見直しということと思うですよ、ここ前は省略してあるようですよ。どのような形で競輪事業を見直すべきか。決断すべき適切な時期（見直しに伴う費用が最少であること）についても検討が必要であると。ある意味では、苦しくなった状況の中で、どう後処理をするかも考えておくべきではないだろうかということを書いて――これは書いてあるというか、武雄市からもらったわけですよ。

だから、私もこの間、新市長になったときに、どういうふうな売り上げ拡大か、経費節減の方針なのか、そして、これを今後どう続けていくのか、やめるとかの判断はどういうふうになるんですかと聞いたところ、売り上げ拡大は中国人を短期的に連れてきて場内をいっぱいにしたらもうかるということですよけれども、そういうふうな話でそっちを獲得する。そして、こっちの精算とか、そっちの方の検討というですか、それについては、もうそれをやめよったらいろいろ金のかかって、何十億円かかると。だから、ちょっとそっちの方は考えられないというようなお話じゃなかったかなと思うわけですよ。

だから、やっぱり私は、もう本場が稼げんやったら場外、この間言いましたように、沖縄とか福岡県の周辺とかですね、もうどこもかしこもできんだから、そういうのに早う取り組んでもらいたいなということと、やめるに当たっては、いろんな、清香奨学会にもとどおり返すのが、どの状態がもとどおりなのか、そういうのの話し合いもせんといかんとかじゃなかかなと。そして、前は選手に対して補償金を払わんといかんやった。この間の裁判では補償金は要らんとかなった。その辺の検討についてもやるべきじゃないかなと思うんですけども、そこについて聞きたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

平成14年度に競輪の健全化計画を策定いたしましたけれども、その時期と現在では、車券の発売状況とか、競輪を取り巻きます状況、環境が変わってきております。一つには、平成17年度には14年度に計画をしていなかったビッグレースのふるさとダービーが開催できた。それから、今年度の記念競輪では計画以上の売り上げが達成できたということ。また、現在赤字を出しております本場開催の日数を1節、3日間ですけれども、減らすことができた。それから、場外発売日数を倍ほどふやすことができた。こういう状況が変わってきております。そういうことから、昨日も申し上げましたけれども、平成17年度決算では、ふるさとダービーが開催できたということで1億円を基金に積み立て、翌年度へ216,000千円程度の繰り越しを出すことができたということでございます。

それからまた、現在、日本自転車振興会交付金の還付金、この分の検討がなされております。それから、本場開催日数のさらなる削減、この制度も検討がなされております。あわせて、本市では新しいサテライト売り場の拡張、それから経費節減に努めているところでございまして、現段階では制度改正の中身とか売り上げの推移を見ながら事業の継続を図っていききたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後の方針について私からお答えしたいと思います。

今のところの気持ちは、さきの議会で答弁したとおりであります。宮本議員から紹介があったとおりであります。その上で、私は一つ提案したいことがあります。

私も18年間、武雄を離れておってですね、競輪の位置づけです。少なくとも「たけお競輪」というのは、東京あるいは大阪からあんまり知られとらんわけですね。それともう一つが、市民の皆さんたちに、本当に自分たちの競輪だという認識があるかどうか。私は率直に

言って非常に疑問に思っています。

そこで一つ提案があるのは、競輪場から競輪の選手たちが飛び出してほしかとですね。例えば、国東半島で毎年行われている、もう25回、28回でしたでしょうか、ツール・ド・国東です。あれの情報を知ったときに、私は一つときめきを覚えました。毎年1,438名平均して集まいよんさあです。それは別にプロ競輪の皆さんたちじゃなくて、全国からサイクリングですよ、ロードレース、その人たちが集まって、一番長かとは150キロぐらいです。一番少なかつても15キロぐらいで、それはもうレベルに応じて、体力とか年齢等に応じて、そういうことをしよんさあわけですね。そういう意味で、武雄でも競輪選手を含めた上で全国からいっぱい競技人口のあると思います。そういった方々と、ぜひ競輪を盛り立てるため、あるいは市民の皆さんたちに認知してもらうために、そういうロードレースができないか。フランスではツール・ド・フランスがあります。ベルギーでも同じような話があります。物すごく市民の皆さんたちに親しまれておるわけですね。そいぎ、例えばそこに宮本選手が走りよったと、黄色い帽子をかぶってですね、まあ色は何でもよかばってんですね。（発言する者あり）えっ。

〔6番「青い旗かなと思って」〕

済みません、それは失礼しました。青い旗をね、帽子をかぶってね。そいぎ、格好よか走りねて、佐賀強かねて、逆境に強かねていうぎ、そこで、本場開催で走りよんさあ、その格好いい宮本選手を見に行こうとか、そういうふうにならないかなと。どうしても競輪場だけでしよったら、やっぱり市民との接点というのがなかわけですね。私は、一朝一夕ではなかなかこれはなかと思います、その競輪がわあっと盛り上がることは。しかし、時間はかかるかもしれませんが、競輪に関心を持つ市民であるとか県民の皆さん、そういった方々をふやすために、どういったことが必要かというのが今求められると思います。幸いなことに、そういうロードレースを武雄でしませんかという申し出が私のところにも来ております。ナイスチャンスです。千載一遇の機会ととらえて、今後、行政としてもそれを積極的に検討していきたいと思いますし、議会の皆さんたちにも積極的な応援をお願いしたいというふうを考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

まず1点目の、競輪選手にもっと皆さんの中に出てきてほしいというのは、私も本当一緒に、その原課の方にも言ったことあるんですよ。武雄にもたくさんお住まいですし、私の子供も、同級生のお父さんが出ているときには、「ああ、この人、1番よ」とかいう形で、ちょびっと覚えているというところもあると思うんですけども、それはよいとして、先ほど部

長、いや、予想以上に売り上げが上がってと言うならですよ、でも160,000千円赤字なわけでしょう。それは自分の計画が低いからじゃないですか。落第する60点を目安にしまして、70点やったもんねと。そいばってん、80点が合格ラインやったというごた話ば今されよっとじゃなかかなと。そいけん、まずそれを言うならば、80点の合格ラインに目標を置いて、それに届くか届かんかは知らんけど、もう最初から落第するとわかっていて、落第する点数の幾らを言ったって、ちょっとあんまりこう、私が最初から言う、これはもうからんでよかとですよ。ただ、言いようごと、夕張市のごと本会計からぼこっと持っていけば、この間の固定資産税の1.55の0.05で50,000千円なんですよ。

だから、それぐらいはもうやったと思えばよか、前からそれは言いようですけれどもね。もう言いわけなんですよ。だから、そこは、できんことをせろては言わんすけれども、そういうふうにして低い目標で達成したという感覚でおられたら困るかなというふうに思いますので、協力はしますけれども、早く場外をですね、鹿児島施設の設置者の小原さんですかね、あの人が頑張って鹿児島中央部にでかいやつをつくってくれるのかなと期待しとったわけですよ。しかし、やっぱりいろいろ諸事情があって、小さい窓口販売になったから、そっちの方も大きくつくることは期待できんなら、もうそういうほかの人に頼まんで、本体自身が、副市長でもそういうのに動いていただければなというふうに思います。以上で競輪の方を終わります。

次、病院についてです。

病院については、平成11年ですかね、12年からになるんすけれども、もうすぐ10年になります。そのときに、病院を引き受けるけど、今採算ラインに乗っているのは200床ぐらいからしか乗ってないと。100床ぐらいじゃ、もうはなからだめばいと。そいけん、結核の方もしながら病床をふやそうというふうな感じでやっていたと思うわけですよ。そして、その10年前にも、大きくするのか、そこにおのかという議論を私がしていたら、いや、もうあそこは移譲したときに縛りがあって、10年間、病院以外は使えないということであるならば、10年間はここで病院を続けんといかんと。だから、そういう発展的なことは考えられねと、10年間ここで我慢せんばいかんということだったと思うわけですよ。しかし、それがいいよもうすぐ10年を迎えるわけなんですよ。

だから、ここで、もともと言っていた東部地区も、商業地区の横は福祉医療ゾーンなんですよ、武雄市が決めた、そこに誘致していくということで、どっちかと言えば武雄市が率先して、市民病院をそこに大体は移さんばいかんわけなんですよ、その計画からいけば。だから、ここで今みたいな形でやっていくのか、健康診断から何からいろいろできる、市長が言う広域的な、小児科も診れるようなものをつくっていくのか、今すぐじゃないけれども、縛りがとれるというのがわかってきた時点で、ある程度考えをめぐらしていかなばいかんとやなかかなと。そこで、計画書をだれかにつくらせて黒字でいきますよと。建物がきれいに

なる分、佐大からたくさん先生が来てくれると、それで売り上げが上がると、そしてもうかっていくというふうな形も考えられるんじゃないかなと。それで、私も、まあほかの人も考えているかもしれませんが、広域的にやるなら大町の60床も一緒に、あそこも古くなっているから、合わせて広域的に200床近くにして運営した方がいいんじゃないかなという考えもあるかなというふうに思うんですけども、その辺の市民病院の将来像について市長はどういうふうにお考えか、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

今議会初めての登壇で緊張しておりますが、病院についてでございますけれども、きのうの吉川議員の質問に古賀副市長が答弁しましたように、非常に厳しい状況にあると思っております。累積赤字が533,000千円、非常に高い数字がありますので、厳しい環境にあると思っております。非常に危惧しております。きのうの古賀副市長の答弁にありましたように、現在、17年度、18年度、2カ年にかけて経営診断をしております。まずはその中身を見てみたいと思っております。

それから、移転についての質問もありましたけれども、現時点では考えておりません。まずは診断書に沿って、病院長をトップに経営改善に努力していただくのが先決だと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

私は絶対大きくせろということじゃなくて、そのときにそういう議論もあつとったと。200床以下でしたってずうっと苦しいですよ。私たちがどこか視察に行ったところも、四国の、こっちの半島の方ですけども、行ったところでも（「大洲市」と呼ぶ者あり）大洲市やったかな、そこも結局、旧療養施設だったんですかね。もともと療養施設で行きにくいところを移譲を受けているんですよ。もともと隔離というんですかね、そういう形のところをしているから、もともと行きにくいのは当たり前になっているんですよ。だから、行きにくいところじゃなくて行きやすいところに移ったということで、経営のことですけども、病院も赤字と言いますけれども、減価償却費をとっての赤字なんですよ。減価償却費というのは、普通は銀行に本体を返すお金になるんですよ。だから、減価償却費をして赤字ということは、減価償却費が払えないから、元金が払えないのかなと思ったわけですよ。そして、公立病院は何か違って、本体の償却費は国の補助金になるとですかね。そこで、決算書を見ていたら払えているんですよ。だから、医業を運営する分と本体を償却する分が別になっているから、大きくつくっても、そこがそれに見合った交付税が来れば、その本体分

はただだから、中の機能だけを黒字化すればいいんだから、全然できんことじゃなかかなと思ったわけなんですよ。だから、この本体まで全部上から払わんといかんなら難しいと思うわけですよ。でも、今の決算書で見たところでは、いや、本体の分は補助金で適用される正規の補助金で払えているから、そういうのができるんじゃないかなと思いますけれども、それは、その報告書を見てからまた話したいと思います。

次に、工業用水の活用の方策です。

工業用水については、50,000千円、本体からずっと払っているわけなんですよ。その50,000千円というのは、先ほど言う固定資産税を0.05%下げたお金に当たるんですよ、だったと思いますけれども。だから、これを売ってゼロにすれば自動的に0.05%下げられるんですよ。だから、その辺で工業用水の活用について、牟田議員の方からきのう提案してもらったけれども、そういう部分もありますけれども、まずはその50,000千円分を使わんといかんということで、前は発光ダイオードの方でほとんど使うからいいということだったんですけども、今度の決算委員会で聞いたら、今度の新しい残り区画に予定の企業を入れても1,000トン余るということです。もう半分は余るということなんですよ。だから、その辺についての、1,000トン余るということがわかった上での今後の考え方についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

武雄市内の工業用水につきましては、今、県営の武雄工業団地の方に給水をするということとやっておりますが、現在、武雄の工業団地があと1区画ということで、2ヘクタール残っておりということで、恐らく全部を使い切るということについては、いけないということで考えております。そういうことはありながら、現在は工水を使う企業をとにかく呼んでくるとことで誘致の活動をしております。

それから、先ほど質問がありましたように、ことしの9月の議会で予算をお願いしました適地の調査も現在行っておりますので、余裕が出れば、その分については新規の工業団地に回していくということで考えておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

新規の工業団地に回すということですね。そしたら、新規の工業団地の方を急いで頑張っていたきたいと思います。

次、4番目の道路整備についてです。

国道35号線については、きのうのですね、踊瀬付近の立入調査の許可についてです。これは、前回市長はまだ行かないというふうなことだったので、市長に行ってほしいということが質問の趣旨だったんですけども、聞き取りのとき、市長が行く前にもう解決しているということだったので、一応それを取り下げてという部長の説明でしたので、もうそれは出さないということで、かわりに、498号線の今度若木にできる道路の件で、私は今まで498号線の会議は何回も出ましたけれども、ルートをはっきりいつも言ってくれないわけですね。それで、今度498号線がはっきりしたということで、最近聞いたら、今市長が盛んに一生懸命されている大楠というのは、大楠本体というよりも、大楠から向こうの田園とか山の立林公園じゃないですけども、借景を利用してあの木が生きているわけなんですよね。そのちょうど木と借景の間に盛り土がぶわっとできて、準高速が走るといわけでしょう。だから、本当にこの3,000年、4,000年の歴史という楠ですよ、その目の前を通って、上から楠を眺めるような格好になって、本当にそれでいいのかなと。もう一回、県に再考をですね（「もう地元説明会は終わったでしょう」と呼ぶ者あり）終わっとうけん、それでほんなごてよかとかないようなことを思うんですけども、市長はどうお考えですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は全く心配はしておりません。というのも、大楠を見たときに、議員も見たことあられると思いますけれども、借景はなかですね。

〔6番「あるある」〕

いや、なかですよ。見てください、大楠を見たときに、どこのアングルから見るかといったときに、国道498号線の方から見た場合には、あの大楠で隠れてしまって、基本的に私はその借景はないというふうに思っております。仮にあったにしても、そこから100メートル以上離れるわけですね。だから、そういう意味で、私は景観は阻害しないというふうに認識をしておりますし、私は悲しかです。地元説明会を一生懸命した上で、なおかつ、そこで地元の皆さんたちが、これでよかたいと、涙をのんできよんさあ部分があるわけですね。そこを、――〔発言取消〕――その場面で言うということに関して言うと、私はある意味で、それだったらもう少し議論の途中で、議論の中で私はおっしゃってしかるべきだと。このタイミングでおっしゃるというのは、若木の皆さんたちがどのように思われるかといったことを考えると、私は甚だ残念であります。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、何年も何回も出てきたですよ、498号線の。そして、ルートを明かせ、ルートを

明かせと何回も言ってきたですよ。でも、ずうっと明かさなかったですよ。待ってくれ、待ってくれ。だから、私が知らないというよりも、そういうのは一言ぐらい、そこで臨時に498号線の総会、今度は呼ばれてなかったのかな。（「11月あった」と呼ぶ者あり）そいけん、そこに呼ばれてなかった、今度は呼んでなかったのかもしれませんが、市長は借景は利用してないと、それが全然関係ないと言われるならいいんですけども、その大楠にですね、上田正樹さんと夫婦でオカリナを吹いていた人が……

○議長（杉原豊喜君）

私語は慎んでください。

○6番（宮本栄八君）（続）

インタビューで言っていたですよ。その大楠もいいけれども、大楠の周辺もいいから、ここは全体がいいんですよ。だから、これだけじゃないんですよということを言われたのが耳にあるわけなんですよ。以前も、あそこに家か何かできたら困るけん、市であの辺も買った方がよかじゃなからうかという話も前聞いたこともあるわけなんですよ。ただ、市長が全然構わないと言われるなら、これ以上、私も言う必要はありませんので、そういうことで、私はちょっとおかしいなというふうに、武雄区の大楠も公民館のために切ろうかなと、いや、公民館ばうっかががさんばいかんという話になったりも、よくよく考えるとあるわけなんですよ。それは武雄区の大楠です。

○議長（杉原豊喜君）

ここで暫時休憩をいたします。

|   |   |       |
|---|---|-------|
| 休 | 憩 | 10時8分 |
| 再 | 開 | 10時9分 |

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

先ほど市長の答弁の中で、－〔発言取消〕－という言葉が発されましたけれども、この件につきましては、市長から削除の申し出がありましたので、これを許可したいと思います。（「自分の口で言わにゃいかん」「何も言うもんされんごたですよ。申し入れあったとですか」と呼ぶ者あり）

暫時休憩をいたします。10時20分まで。

|   |   |        |
|---|---|--------|
| 休 | 憩 | 10時10分 |
| 再 | 開 | 10時24分 |

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

市長より発言の申し出がっておりますので、これを許可します。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど議長に申し入れをいたしました、私の発言に不適切な部分がありましたので、発言を取り消させていただきます。議会の皆さん、お待たせして申しわけございませんでした。

○議長（杉原豊喜君）

次に、大石建設部長より発言の申し出がっておりますので、これを許可します。大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

国道35号線のS字カーブの件につきまして、宮本議員の方から、市長が行く前にというふうな話がちょっとございましたけれども、12月4日に市長が地権者の方を訪問して、その後、地権者の方からオーケーだという連絡ございましたので、市長が訪問して初めて了解を得ましたので、ここで改めて宮本議員の発言に対しまして、返答させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

私もちょっと言いたいことはたくさんあるんですけども、ほかのあれもありますので、またそこは日時をきちっと精査して、また発言したいと思います。

次に、2番の北方バイパス関係についてです。

これは私も合併したら、武雄と北方の間を行くときに、大崎付近でいつも停滞していると。これが合併すれば解決するんじゃないかなというふうに思っておりましたけれども、市民の方もそういうふうに思われた方多いんじゃないかなと思います。そこで、私は北方バイパスがもっと話が進んでいるのかなというふうにちょっと今まで誤解していたんですけども、この間聞いたところでは、今から国会議員さんに要望したりということだったので、これは合併してこの10年間の間にできんとやなかかなというふうな気持ちを持ったわけです。でも、あそこに関しては、もう速やかにでも工事をしてもらいたいと思うわけですよ。そこで、今回の提案というのは、本来の北方国道のバイパスじゃなくて、県が合併するときに約束した道路整備の優先順位、合併する周辺市町村、合併する市、そして合併しないところというふうな優先順位をつけて道路予算をつけるということと言われていたと思います。そして本庁につながる幹線については最優先にしてくれるということだったと思いますので、この県道バイパスでまずはしておって、その498号線も最初は県道だったですよ。県道を国道に昇格した。だから、そういう形で県に合併のお約束でつくってもらって、将来的に国道に昇格させるという方法を考えると、いつまでたってもこの行き来がスムーズにいかないんじゃないかと思いますけれども、その辺で、県に合併のお約束である幹線道路整備に絡んで、このバイパス的なものを要求できないかについて、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

この国道34号線のバイパスにつきましては、以前よりその推進に努力をすべく要請をいたしているところでございますけれども、この地域はＪＲ佐世保線、六角川が接近をしておりますし、非常に軟弱地盤であるというふうなことから、非常に道路選定、路線選定、そういったものにまだ至っていないのが状況でございます。しかし、国によって既に用地の一部が買収をされておりますし、現在もその計画が継続して進められている状況でございます。この段階でございますので、県で合併支援道路整備事業として、県道のバイパスというふうなことは重複するというふうなことから、現実的には非常に難しいというふうに考えております。市としては国の整備を後押しをし、要請をしていきたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

軟弱地盤とか道路の選定とか、この武雄市の管内道路図のはじっこの北方の部分のその大体の道路の方は点線で示してあるんですよね、ここに示してあるんですよ。だから、そう選定には時間がかからないんじゃないかなと。まだこれについては次回も詳しく調べてやりますので、よろしくお願いします。

次に、区画整理関係です。

区画整理の道路に関しても、地元の方から新しく建物を建てるけども、建てた場合に、後ろの出入り口の通路がとれないと。そしたらまた、昔のように表の方からごみ出ししたり、別通路をつくってせんといかんということで、後ろに通路をつくってほしいという希望が出ておりますけれども、それについて、いやもうそういうのはできないというふうに言われていますけれども、後ろから勝手口が出れないようなお店というのが、今からそういうのが存在するのか、なかなか疑問に思うわけですよね。だから、そこは知恵を使って、後ろからもごみなり搬入をできるように、従業員の交代ができるように考慮すべきだと思いますけれども、その辺についてのお考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

議員の皆様方には、議長の許可を得まして説明資料としてお渡しをいたしておりますが、市民の皆様にもわかるように、パネルを上げたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。（パネルを示す）言葉そのものが非常にわかりづらいところがございます。背割線と言われておりますけれども、その背割線というのが、どういうものかといいますと、皆さ

ん方のお手元に、これと同じものを差し上げておると思いますので、それを見ていただきたいと思います。ここの赤で示しているのが背割線でございます。それがどういった形になるかといいますと、上の方の横断面のところを見ていただくとわかりますように、川端通りの建物がございまして、その先、松原通りの建物がこちら側に配置をされます。そうすると、線路が今ここのところにあるわけですが、そここのところ、どうしても段差ができます。これは現在の地形を見ていただくとわかりますとおり、どうしても段差をつけないければ、うまくできませんので、向こうの方が落とすわけいきませんので、どうしても段差ができます。そうすると、そこに段差ができるところに背割線で道路というのが非常にこういう形になりますので、片方はここの人は何とか使える可能性もあると思いますが、この人は、ここを通るときにのぞかれるような形、ちょっと極端なこと言えばなってくるわけですね。こういった形になるものですから、これについては非常に難しいだろうと。ただ、ここのところに少し用地がありますので、人が出入りするのとは可能だと思いますが、背割線をつくって道路をというのは、非常に難しいというふうに考えているところでございます。

御質問の趣旨はわかりますけれども、この地形上、それからこの家を建てたときのことを考えますと、背割線は非常に難しいというふうに判断をいたしているとございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

背割線のところにわざわざぶつけるような計画をするからでしょう。背割線を中心に、背割線のためのまちづくりですか。そうしたら、もっと家の方を横長にしてですよ、間に入れてもいいんじゃないですか。背割線があるから、背割線のためのまちづくりをして、店が利用しにくいというのはおかしいでしょう。それは背割線の解消とか、それをもっとこっちの家の方までくっつけて、そこで背割線にして空間をあけてつるとか、いろいろあるとやないですかね。そいけん、ちょっと私はそういうふうに思います。つくるべきだと思います。つくらんで中途半端なのをつくっても意味がないと思います。

次に、区画整理関係では、高架の切りかえが20年に行われますけれども、今度は考えが線路から道路の方に行きますよね、上がっていくから。すると、計画する大きな大交差点が4カ所、5カ所できると思うんですよ。でも、反対側の道は大きくならないから、計画は大きな交差点ですけども、実際の何十年間に変形交差点になると思うわけですよ。だから、その変形交差点の計画をつくって、市民にこういう変形で何十年やりますよという計画を示さんといかんと思いますけれども、その辺についての考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

区画整理区域内の主要交差点は、松原、西浦、それから駅舎横の永松、小楠の4カ所がございます。計画としましては、松原と永松の交差点は完成型ということで予定をしておりますが、西浦と小楠の交差点は、御質問のとおり、一部が暫定型にならざるを得ないというふうに考えております。現在、関係機関、公安委員会とか道路管理者の佐賀県とか、協議を行っておりまして、協議が調い次第、交通安全確保のために住民の皆様方に周知を図っていきたいというふうに思っております。ただ、この交差点は交通安全上、最も重要でありますので、信号機を設置した完成型に近づける必要がありますが、やむを得ず暫定になる場合は、そういったものを表示をしながら、事故防止に努めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

変形型の交差点の計画はつくらずに、案内とかなんとかでずっと対応していくということですね。それもあれですけども、その変形交差点が何十年も続いたら、ある程度皆さんに示して、角取りとかなんか、そういうことはしなくてはいけないんじゃないかなと思います。

続いて商工観光行政についてです。

またこれも市長と私考えが一緒なのは、商店街、温泉街を歩かせんといかんと。歩くためには駐車場が必要だということで、駐車場をさぎの森につくってもらえるということで期待しとったんですけれども、この間はそうでもないようなお話をされたと思うんですけれども、結果、どういうふうに今お考えなのかをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さぎの森の多目的広場については、私も駐車場がいいなと思って、各方面に投げかけはしました。有料を無料にするか、あるいは商店街の方々に管理をしていただくか。さまざまなことを考えて、一番ネックになるのが、これは3年ぐらいしたら、また道路の用地になるわけですね。だから、抜本的な駐車場の改修というのは費用対効果を考えた場合に、ちょっと厳しいのかなということで、今考えているのは、農業経営者の皆さんたちに広く呼びかけをして、サンデーファーマーズマーケット、日曜市を開催するなど、今まで使われやらんやったところをいかにして使ってもらえるかと、使うようにするかといったことで、今、観光協会等々に投げかけているところであります。そういったことで、歯切れは大分悪くなりますけれども、当初思っていたもくろみと今の現状というのは、私は認識に差があります。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、そこは3年後に道路用地になるかもしれないということですね。だから私が言い出したのも、3年後に道路用地になるならば、整備しないで、あのれんがが少し傷んでもあそこでできるんじゃないだろうかという、反対の発想から言ったわけですけども、そういうことです。そしたら、あそこをしないとすれば、どこを駐車場にしようと思ってるんですかね。

〔市長「それは今か後か、場所」〕

あー、場所です、場所。

〔市長「それは今後ですか」〕

はい。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

町中広場を一時的な駐車場として考えていきたい。そして今、いろんなところで周辺部で、だんだん家を壊しよんさあですね。そういったところが一団の土地が確保できれば、そこを有料、無料にするかどうかは別にして、周辺部にドーナツのごと駐車場をつくりたいということが私の眼目であります。なるべく武雄温泉のところも含めて、車が入れないようにしたいというのが究極の私の理想であります。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そういうふうなことであれば、私もそういう空き地の活用というんですかね、そういうのもいいかなというふうに思います。要するにこういう市が出している中心市街地は、基本計画の中にも、まず50%を占めているのは、車をとめる場所がないということが59.4%になっておりますので、よろしくお願いします。

続いて次に行きます。お祭りの今後の開催と補助金についてです。

物産祭りについては統一されるということで、ボリュームアップでよそから人を寄せるということなんですけれども、余り冬にすると、寒くて困ったという今度話も聞いておりますので、開催時期も事前に考えるためには、来年、物産祭りというか、産業祭りをどこから開催第1回目をされようと市長は考えているのかが1点。

それと、別の意味で、お祭り一本化は、武雄市お祭り振興会の補助金を受けている部分と言われますけれども、ほかのところにも補助金をやっているところもあるし、若木の湖水ま

つりなんかもらわないでもやっているんじゃないかなと思うんですけども、その辺にも不均衡があるんですよね。だから新市を期に、その補助金のあり方についても目配りをするべきじゃないかなというふうに思いますけれども、その2点について伺います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ことしの物産祭りの報告をしたいと思います。まず最初に、開催された北方会場であります。これは8,000人、山内会場5,000人、武雄会場1万2,500人ということが報告として出てきております。私もこれは冬にすると、やっぱりきつかなと。冬になぜしよったかというのを調べてもらったら、やっぱり農産物が冬に一番出ると。しかし、ことしの3会場とも農産物の占める割合というのは、多分10%切ったと思います。したがって、私の個人的見解は、12月前後に余り固執する必要はないんじゃないかというふうに思っています。それとともに、会場を今回初めて図書館のところでやりましたけれども、やっぱり駐車場の問題とか出てきておったですね。だから、それを一たん運営委員会、総括会議が開催されるというふうに聞いております。その議論、今後どうしたいかということについては、この皆さんたちの意見をまず真摯に承ろうと思っております。その結果、やっぱりゴールデンウィークにしゅうさと、夏がよかさとかいうことに関して言うと、まずその意見を見守ろうと思っております。（「場所」と呼ぶ者あり）場所はそれも含めて。一回総括をしてもらった上で、私もその議論に加わっていこうというふうに思っております。だから、何が何でも一本化というのは、ちょっと今、もう一回ちょっと意見をきちんと聞きたいなというふうに、柔軟に思っております。

2点目の補助金のあり方であります。補助金のあり方については、物産祭り実行委員会、お祭り振興会、世界一の登り窯祭り実行委員会、四季の丘フェスタ実行委員会、黒髪のロマン祭り実行委員会に対し、補助金や負担金を交付しているところであります。

現在、物産祭り、お祭り振興会事業について、事業計画を見直しているところであります。2事業については、事業計画を今つくってもらっています。これができ次第、補助金等の額を決定したいというふうに思っております。今まではその交付基準が明らかじゃなかったわけですね。ですので、今後、補助金等を交付する祭りについては、観光客の集客、あるいは経済効果など費用対効果を見ながら、基準を設けて交付をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

以上で私の質問を終わります。あと残った部分は、ちょっと年越しになりますけれども、

3月の方にしますので、その答弁用紙をそのまま持っていていただきたいと思います。よろしくお願いします。